

路傍の神々

特集「幕別の馬頭観世音」より



十勝の中でも指折りの馬どころであった幕別。
かつては十勝一と言われ、最盛期の昭和35年には4800頭を上回った。

今日の農業の発展は馬の活躍をぬきにしては語れない。

馬頭観世音は、開拓で倒れた馬や軍馬として戦病死した馬の供養と、農業の繁栄を祈って建てられたものである。

本来、馬頭さんの彫像は恐ろしい顔をしているのが基本だが、幕別の馬頭さんは比較的穏やかな表情をしている。

これは職人や依頼者の好みなどが左右したものである。

当時は馬に感謝し供養のため、春と秋の二回僧侶を招き念仏を唱え馬頭さんをお祭りするのが部落の年中行事であった。

大人も子供も大勢集まり、楽しみな行事の一つであったという。

町民文芸

まぐべつ

第17号・2001